

星空プロムナード 暦惑星ふたご座

作花一志（京都情報大学院大学）

寒さも和らぎ星空に親しめる頃となりました。春から夏にかけての主な天象です。

月 日	現象	備考
3月8日	新月	
3月20日	春分	太陽黄経 0
3月22日	満月	
4月6日	新月	
4月20日	満月	
5月1日	八十八夜	立春から88日目
5月5日	立夏	太陽黄経 45
5月6日	新月	
5月20日	満月	1
6月6日	新月	
6月10日	入梅	太陽黄経 80
6月19日	満月	
6月21日	夏至	太陽黄経 90

金星

昨秋からずっと「明けの明星」のままですが、6月9日に太陽の背後を通り以降西の空に回ります。しかし宵の明星として日没後に輝くのは6月後半以降になるでしょう。

火星

3月初にはぎょしゃ座・ふたご座にいて前半夜見えます。次第に東へ移動し、かに座を経て6月にはしし座に移り、西の空に見えます。7月初にはレグルスの近くで土星と接近します(p.3の図3参照)。

木星

ゆっくりといて座からみずがめ座に向かっていきます。3月に見えるのは夜明け前ですが、昇ってくる時刻は次第に早くなり6月中旬ころには、日没後東の空

に輝くようになります。

土星

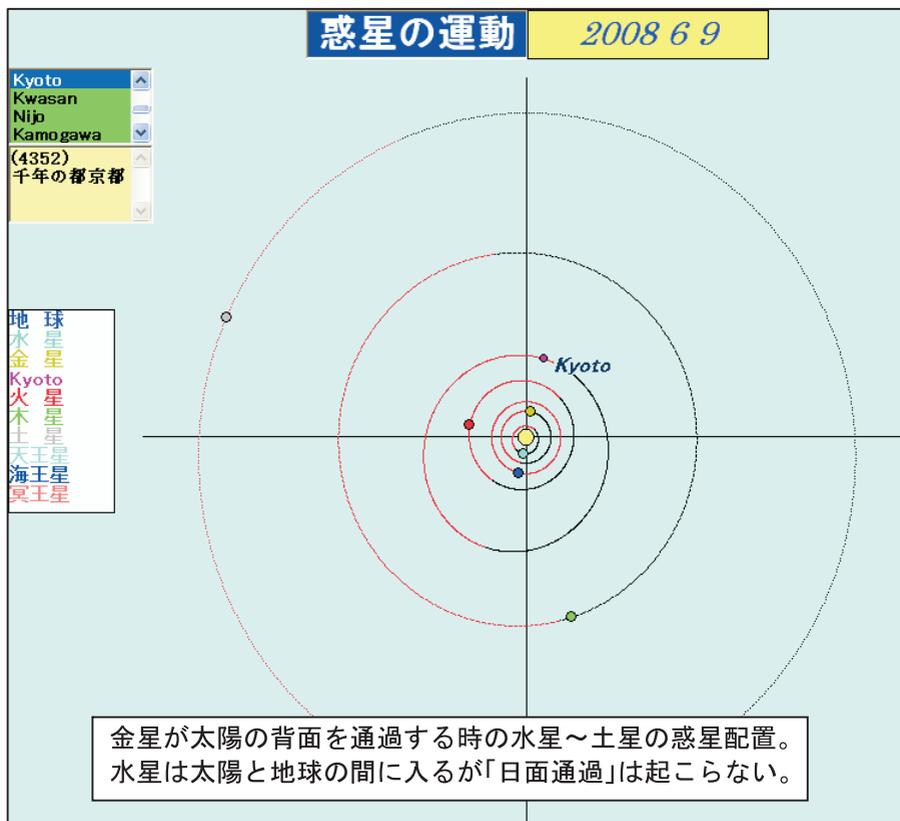
昨年からずっとしし座レグルスのそばで、春から夏にかけて眺めやすい位置にいます。火星が近づいて来て7月11日には1度以内まで接近します。

日月食

今年の春から夏にかけては起こりません。

春分の日

太陽黄経が0度になる瞬間を含む日で今年は3月20日です。昼夜同時間にはならず昼時間は12時間10分あります。また太陽は真東よりわずかに南寄りから昇り、真西よりやや北寄りに沈みます。



ふたご座物語

早春の代表的な星座であるふたご座は12星座の中では最も北にあるため非常に見やすく、ギリシアや日本ではほぼ天頂を通ります。名前の由来はカストル(α 星)とポルックス(β 星)という2つの明るい星が並んでいるためで、ポルックスのほうがやや明るく、そして赤味を帯びています。もちろんこの2つの星は同じ方向に見えているだけで、お互いの関係はありません。

ギリシア神話ではこの2星は双子の兄弟とされています。矢を持っているのが兄カストルで、なんとこの2人は卵から生まれました。でも鳥や魚の子ではなく、神と人間の間に生まれたのです。ある日好色の大神ゼウスは水浴びしているスパルタの王妃レダに魅せられて白鳥の姿になり、この美女に近づき誘惑しました。月満ちてレダは、大きな卵を2つ産みます。その1つから双子の兄弟カストルとポルックスが生まれました。2人は仲のいい兄弟で、長じてカストルは剣の、ポルックスはボクシングの名手になりました。カストルはケンタウロスのケイロン(いて座)から乗馬も習っています。一緒にさまざまな冒険をしましたが、その中にはイアソンのコルキス遠征の参加も含まれます。

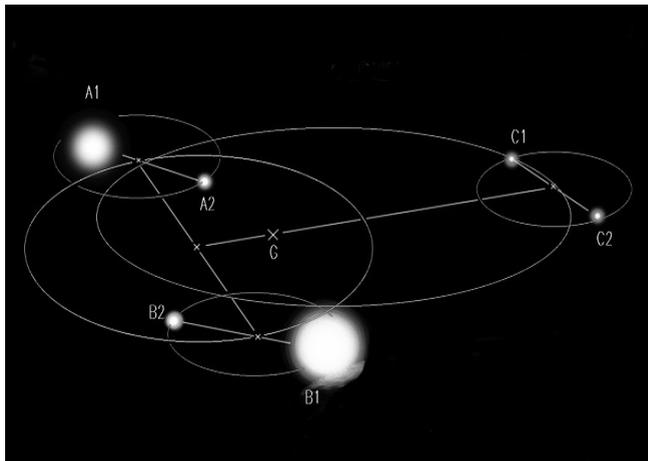


ところがある日、獲物の取り合いでいとこ達と争い、カストルは命を落してしまうのです。ポルックスは兄の亡骸をかき抱いて、一人で生きていくより、いっそ一緒に死のうと剣や矢で自分の胸を刺しますが、どうしても死ねません。カストルは人間である母レダの血を引いていましたが、ポルックスは神である父ゼウスの血を引いていたからです。ポルックスは苦しみに耐えかねて、父神に自分の命を奪ってくれるよう訴えます。ここでゼウスはカストルを蘇らせるべきなのに、なんとポルックスの願いをそのまま聞き届けてしまうのです。嗚呼、なんとという父親でしょうね！結局2人とも星になったというお話です。

さて、もう一方の卵からは双子の姉妹ヘレネとクリュタイムストラが生まれました。ヘレネは絶世の美女となりますが、神々の気まぐれがもとで、彼女の争奪をめぐる全ギリシアとトロイが10年間も空しく戦い続けるトロイ戦争(これは史実)と

いう大事件が起っています。このお騒がせの大神である白鳥は夏の夜空ではくちょう座になっています。

α 星カストルを望遠鏡で眺めてみると2つの2等星A, Bに分れて見えます。この2星よりやや離れて赤い9等星があり、これもカストルのメンバーでCと呼ば



れています。ではカストルは三重連星、いやこのA, B, Cの3星それぞれがまた連星で、結局カストルは六重連星、双子ならぬ六つ子なのです。これは現在知られている多数の星々の中で最も複雑なシステムです。

一般に2個の星は安定した公転運動を続けますが、数個の集団は不安定なもので(人間社会と似てますね)、いつかは解散してバラバラになっていく運命にあります。現在のグループメンバーとしての姿はかれらの生涯の一断面に過ぎないのでしょうか？いや、カストルの星々の配置や運動は基本的には2個の星から成る普通の連星の場合と同じで、それぞれが勝手に動いているわけではありません。かれらの社会は安定なペア単位より成り立っていて結束は堅いようです。

1972年ポルックスの足元に全天で2番目に明るい γ 線天体が発見され、ジェミンガと名付けられました。ジェミンガの正体は超新星残骸で、約300光年の彼方にあります。これはこれまで知られているうちで最も近い、したがって最も明るい超新星です。かに星雲(おうし座)超新星は出現時(1054年7月)には昼間でも見えたと言われていますが、この超新星はそれどころではなく、その1000倍すなわち満月くらいに輝いたはずで、爆発は約30万年前と推定され、当時マンモスやサーベルタイガーと共存していたなんとか原人は数ヶ月にわたって夜の暗さを忘れてしまったでしょう。